

## 男女共同参画に関するアンケートからの課題

### 家庭生活の意識

- ・家庭生活での立場やありかたについては、“男性の方が優遇されている・どちらかといえば男性の方が優遇されている（41.6%）”と感じており、特に女性において、家庭生活で男性が優遇されていると考えている割合が高い。
- ・家事または日常的な行為については、掃除、洗濯、食事の支度、食事の片付け、日常の買い物、家計の管理で、“いつも女性が行う・ほとんど女性が行うがときどき男性も行う”ことが7割～9割となっている。一方、“いつも男性が行う・ほとんど男性が行うがときどき女性も行う”ことは、家や日用品の修理、自家用車の管理で半数を超えているにすぎず、特に家事における女性の負担の大きさが伺える。
- ・家事または日常的な行為の理想については、“男女とも同じように行う”が望ましいと考えており、特に家族の介護で現状（8.2%）と理想（49.3%）とその差が大きくなっている。
- ・家事・育児に携わる平均的な時間については、男性は“30分未満・30～1時間”という短時間が約6割を占めている。
- ・2人に1人が「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」と考えており、前回調査よりも若干増加している。

### 子育てに関する意識

- ・約6割の人が、「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」と考えており、その理由は「性別にこだわると子どもの可能性を狭める」ためが最も多くなっている。
- ・子育てをしながら働く上での悩みは、「自分のための時間が取りにくい」や「仕事と育児・家事の両立が、体力的・時間的に難しい」が多くなっており、さらに、女性では「家族の理解・協力が得られない」も多くなっている。
- ・子どもの男女共同参画意識を育てるために力を入れることとしては、「男性が家事等へ参加する、互いに助け合うなど、家庭での取り組み」が約5割を占めている。特に女性の割合が高くなっている。男性の家事への参加が望まれている。

### 仕事と生活の調和

- ・職場での立場やありかたについては、2人に1人が“男性の方が優遇されている・どちらかといえば男性の方が優遇されている”と感じている。
- ・就業の理由は、「生計の維持のため」が最も多く約7割を占めているが、特に女性では「社会や人と関わりを持つため」も約5割と高くなっており、性別によって就業の理由に差がある。
- ・仕事をやめざるを得なかったことがある人は、女性で41.5%、男性で16.7%であり、女性の方が仕事をやめざるを得ない現状が伺える。また、その主な理由は「自分の健康や体力的な問題」や「結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然」、「家事や育児をする人がいなかった」であり、家事や育児を女性が担わざるを得ない現状が伺える。
- ・育児のための休業制度は、男性の約7割が“認知している”に対して、女性では約5割に留まっており、女性の認知度が低くなっている。
- ・介護のための休業制度は“認知している”が44.2%となっており、育児のための休業制度（60.6%）よりも認知度が低くなっている。
- ・育児や介護のための休業制度は、全体で約4割、男性では約5割が取得できていない。その理由としては、「職場に休める雰囲気がないから」が最も多く、約5割を占めている。
- ・男性が育児・介護休業制度をとることについては、約6割が“進めるべきである”と考えている。
- ・仕事、家庭生活、地域の生活、個人の生活の中では、性別にかかわらず、「家庭生活を優先したい（希望）」が7割を超えており、特に30歳代・40歳代でその傾向がみられる。しかし、現実には、男性の約6割、女性でも約3割が仕事を優先している。
- ・ワーク・ライフ・バランスを“認知している”は34.1%と3割程度に留まっており、特に女性で低い傾向にある。ワーク・ライフ・バランスという言葉や意味自体の理解が十分なされていない状況である。
- ・ワーク・ライフ・バランス実現のための努力状況については、“努力が不足している”人が約6割を占めている。
- ・ワーク・ライフ・バランス実現のために“行っていること”は、「効率よく仕事をする」が約4割を占めているが、男性では、「地域活動等に参加する」が約2割となっている。
- ・ワーク・ライフ・バランス実現のために必要なものは、女性では「家族の理解と協力」が46.8%と最も多く、男性では「職場の理解」が42.2%と最も多くなっている。

### 地域活動

- ・地域活動については、「参加している」が46.5%となっており、特に20歳代・30歳代では約2割～約4割と低い傾向となっている。
- ・参加している地域活動は、「町内会活動」が約8割と最も多い。
- ・参加しない理由としては、「仕事が忙しい」「参加したいものがない」などが多くなっており、特に男性では「仕事が忙しい」が約5割と多くなっている。
- ・今後行いたい地域活動としては、「文化活動・趣味・教養」「ボランティア活動などの社会奉仕活動」「スポーツレクリエーション活動」「町内会活動」が上位になっています。

### 課題1

## 性別に関わらず、一人ひとりが活躍できる社会をつくろう！

～家庭・地域・職場における環境づくり～

2人に1人が「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」と考えており、家事や日常行為についても女性の負担が大きくなっています。

そのため、特に家庭における固定的性別役割分担の見直しが必要です。

### 課題2

## ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現させよう！

～働き方の見直し、男女の役割の見直し～

ワーク・ライフ・バランスを“認知している”は約3割に留まっており、理解が十分なされていない状況です。また、職場における育児や介護のための休業制度は、全体で約4割が取得できておらず、取得できない理由としては、「職場に休める雰囲気がないから」が最も多くなっています。

そのため、企業において、育児や介護のための休業制度の活用を促すなどの支援が必要です。

### 課題3

## だれもが活躍できる地域活動を展開しよう！

～ワーク・ライフ・バランスを支える地域づくり～

ワーク・ライフ・バランス実現のために行っていることとして、男性では、「地域活動等への参加」が2割程度見られます。また、今後行いたい地域活動としては、「文化活動・趣味・教養」「ボランティア活動などの社会奉仕活動」「スポーツレクリエーション活動」「町内会活動」が上位になっています。

そのため、地域においてワーク・ライフ・バランス実現のための多様な活動の展開が必要です。

## ドメスティック・バイオレンス

- ・ドメスティック・バイオレンスについては、医師の治療が必要となる暴行や交友関係などの監視など、いずれの項目についても「全く無い」が8～9割となっている。「1、2度あった」については、言葉による暴力（11.8%）、長時間の無視（9.0%）となっている。
- ・安城市は国よりも、医師の治療が必要となる暴行や医師の治療が必要とされない程度の暴行がある人の割合が低くなっている。
- ・前回調査と比較すると、「ドメスティック・バイオレンスの経験がある」は、若干減少する傾向にあるものの、根絶には至っていない。
- ・ドメスティック・バイオレンスの相談は、「だれにも相談しなかった」が約5割とであり、その理由としては、「相談するほどのことではないと思った」人が多くなっている。
- ・相談する場合は「友人・知人」や「親や親戚などの身内」が約6割であるのに対して、「役所」「警察」「法務局」「弁護士」などの公的機関等への相談は、8.3%に留まっており大変低い状況です。
- ・ドメスティック・バイオレンスに対して必要な行政の対応としては、「DV被害者のための相談体制を整える」「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設活動を支援する」「DV被害から逃れた人が自立して生活できるよう支援する」が多くなっています。

## 市政への女性意見の反映

- ・社会問題や市政への関心は“なんらかの関心を持っている”人が約7割を占めており、年齢が高いほどその傾向にある。また、女性では割合は若干低くなっている。
- ・市の施策へ女性の意見が反映されているかについては、「ある程度反映されている」が約3割となっており、前回調査と比較すると若干減少している。
- ・市の施策に女性の意見が反映されていないと考える理由については、「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」、「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」など政策を進める上で女性の意見の反映が充分でないと考えられる。

## 自由意見

- ・「男女共同参画という言葉は初めて知った」や「安城市がどのように取り組んでいるのか分からない」、「男女平等にするのは性差がある以上無理だ」などの意見があり、男女共同参画の理解が十分でない状態が伺える。
- ・家庭では家事や育児の役割分担や、企業における女性が働きやすい環境づくり、行政では子育て環境の充実といったことが望まれている。

## 課題4

### ドメスティック・バイオレンスやセクシャル・ハラスメントを根絶しよう！

～女性や弱者に対する暴力の根絶～

安城市におけるDVの経験者はわずかながら減少傾向にあります。また、いまだに存在しています。

そのため、ドメスティック・バイオレンスの根絶に向けた一層の取り組みが必要です。

## 課題5

### 女性の視点を入れた市政運営をしよう！

～意思決定過程への女性参画の促進～

市の施策へ女性の意見が反映されているかについては、「ある程度反映されている」が約3割に留まっており、前回調査と比較すると若干減少しています。

そのため、女性の意見や視点を反映できるしくみなどの充実が必要です。

## 課題6

### 男女共同参画の正しい理解を普及させよう！

～性別にとられない生き方・考え方の尊重～

自由意見にて、「はじめて男女共同参画という言葉聞いた」や「安城市の取組がわからない」、「男女平等にするのは性差がある以上無理だ」など男女共同参画の理解がいまだ十分では無いことが伺えます。

そのため、男女共同参画を正しく理解できる場や適切な情報提供などが必要です。

## 国と愛知県の動向

### ■第3次男女共同参画基本計画（平成22年12月）

- 女性の活躍による経済社会の活性化
- 男性、子どもにとっての男女共同参画
- 様々な困難な状況に置かれている人々への対応
- 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- 地域における身近な男女共同参画の推進

### ■あいち男女共同参画プラン2011-2015（平成23年3月）

### ■あいち仕事と生活の調和行动計画（平成24年1月）

## 安城市の動向

### ■安城市男女共同参画推進条例（平成20年4月）

- 基本理念
- 男女の人権の尊重
  - 社会における制度や慣行への配慮
  - 方針の立案・決定の場への参画機関の確保
  - 家庭生活とその他の社会生活との両立

## 男女共同参画に関する社会動向

### ■社会経済動向

- 少子高齢社会・人口減少社会の到来
- 家族形態の変化（3世代同居の減少、晩婚化・非婚化、ひとり親世帯の増加）
- 育児・介護休業法制度改正（イクメンプロジェクトの始動、男性が育児休業を取得しやすい環境）
- 親の介護負担の増大（在宅介護の増大や兄弟姉妹数の減少等）
- 長期にわたる景気の低迷、所得の減少による厳しい家計状況
- 扶養控除の一部廃止や年金第3号被保険者の扱い等、子どもや主婦に関わる制度変更
- 派遣やパートなど非正規労働者の増加、失業者の増加や就職内定率の低下
- 女性の社会進出の進展
- 地域コミュニティの希薄化
- NPO活動・ボランティア活動・企業CSR活動の活発化、「新しい公共」の推進